Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

SVC052-07 会場:302 時間:5 月 26 日 15:45-16:00

箱根火山の新しいカルデラモデル
A new model of the Hakone Caldera

萬年 一剛 [1*]
Kazutaka Mannen[1*]

[1] 神奈川県温泉地学研究所
[1]Hot Springs Research Institute

箱根カルデラは久野久によりクラカタウ型カルデラとされたが、著者の研究により、これまでイメージを一新する複雑なカルデラ構造が明らかになりつつある。著者は久野が解析したものを含む箱根カルデラ内で掘削された 24 の温泉井戸のボーリング試料を解析し、比較的新しい火山礫凝灰岩（層相Ｖ）と、それを覆う湖成堆積物（層相Ｓ）のセットが広い範囲で認められることを明らかにした。Kuno et al. (1970) はこれらについて多くの場合、前者を基盤岩である湯ヶ島層群、後者を火砕流堆積物としてきたが、この認定は、前者が変質の度合いが湯ヶ島層群より新しいこと、後者が変質していない珪藻や花粉化石を含むことから誤りである。この解釈の変更により、箱根カルデラの中に濁川型カルデラと称されるような、小規模なカルデラ複数存在する可能性が出てきた。これらの小規模カルデラのうち、強羅付近の強羅潜在カルデラ構造、および湖尻付近の湖尻潜在カルデラ構造は、湖成堆積物中のテフラや化石、山体の崩落ブロックの給源などから、形成年代がほとんどが MIS4、一部は MIS7 に絞り込まれることがわかった。
一方、箱根カルデラの規模はこれらの潜在カルデラ構造よりも大きく、潜在カルデラ構造の複合体が地形的な箱根カルデラを規制しているわけではない。箱根カルデラの輪郭は直線的であり、構造的な規制を考える必要がある。

キーワード: 箱根火山, カルデラ, 濁川型カルデラ
Keywords: Hakone Volcano, caldera, Nigorigawa type caldera